

Economic Indicators

発表日: 2021年12月8日(水)

国際収支(2021年10月)

～貿易・サービス収支の大幅赤字が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支	サービス収支		
2020	4月	439	1,017	▲ 13,087	▲ 9,172	▲ 3,916	15,546	
	5月	9,059	6,091	▲ 7,721	▲ 4,170	▲ 3,552	15,589	
	6月	▲ 143	9,856	▲ 3,830	▲ 1,380	▲ 2,450	15,466	
	7月	13,726	9,723	▲ 2,450	840	▲ 3,290	13,569	
	8月	19,226	14,596	733	4,595	▲ 3,863	15,873	
	9月	15,013	11,916	3,714	6,857	▲ 3,143	15,016	
	10月	19,482	17,923	4,751	7,193	▲ 2,442	15,460	
	11月	17,323	21,338	6,369	9,062	▲ 2,694	17,444	
	12月	11,165	19,962	5,243	8,105	▲ 2,862	16,625	
	2021	1月	5,063	13,836	3,598	6,565	▲ 2,967	13,240
		2月	27,801	17,078	▲ 2,238	▲ 123	▲ 2,116	21,119
		3月	24,867	15,344	4,203	7,924	▲ 3,720	12,707
4月		11,615	13,882	▲ 1,588	3,381	▲ 4,969	17,609	
5月		18,188	17,089	722	4,366	▲ 3,643	18,143	
6月		7,469	16,215	▲ 877	2,234	▲ 3,112	19,078	
7月		17,482	12,508	▲ 1,315	3,410	▲ 4,725	16,528	
8月		15,030	8,800	▲ 3,691	▲ 841	▲ 2,850	13,787	
9月		10,337	7,627	▲ 8,142	▲ 4,503	▲ 3,639	17,532	
10月		11,801	10,259	▲ 6,127	▲ 1,868	▲ 4,259	18,199	

(出所) 財務省「国際収支統計」

○10月の経常収支(季節調整値)は黒字幅改善も、輸出の低迷が続く

10月の経常収支(原数値)は11,801億円の黒字(コンセンサス:12,832億円の黒字、レンジ:9,169億円の黒字~15,282億円の黒字)、季節調整値では10,259億円の黒字(9月:7,627億円の黒字)となった。貿易・サービス収支が先月より赤字幅を縮小させたことで、経常収支は黒字幅拡大となった。もっとも、自動車減産による輸出の低迷は続いており、貿易・サービス収支は大幅な赤字が続いている。

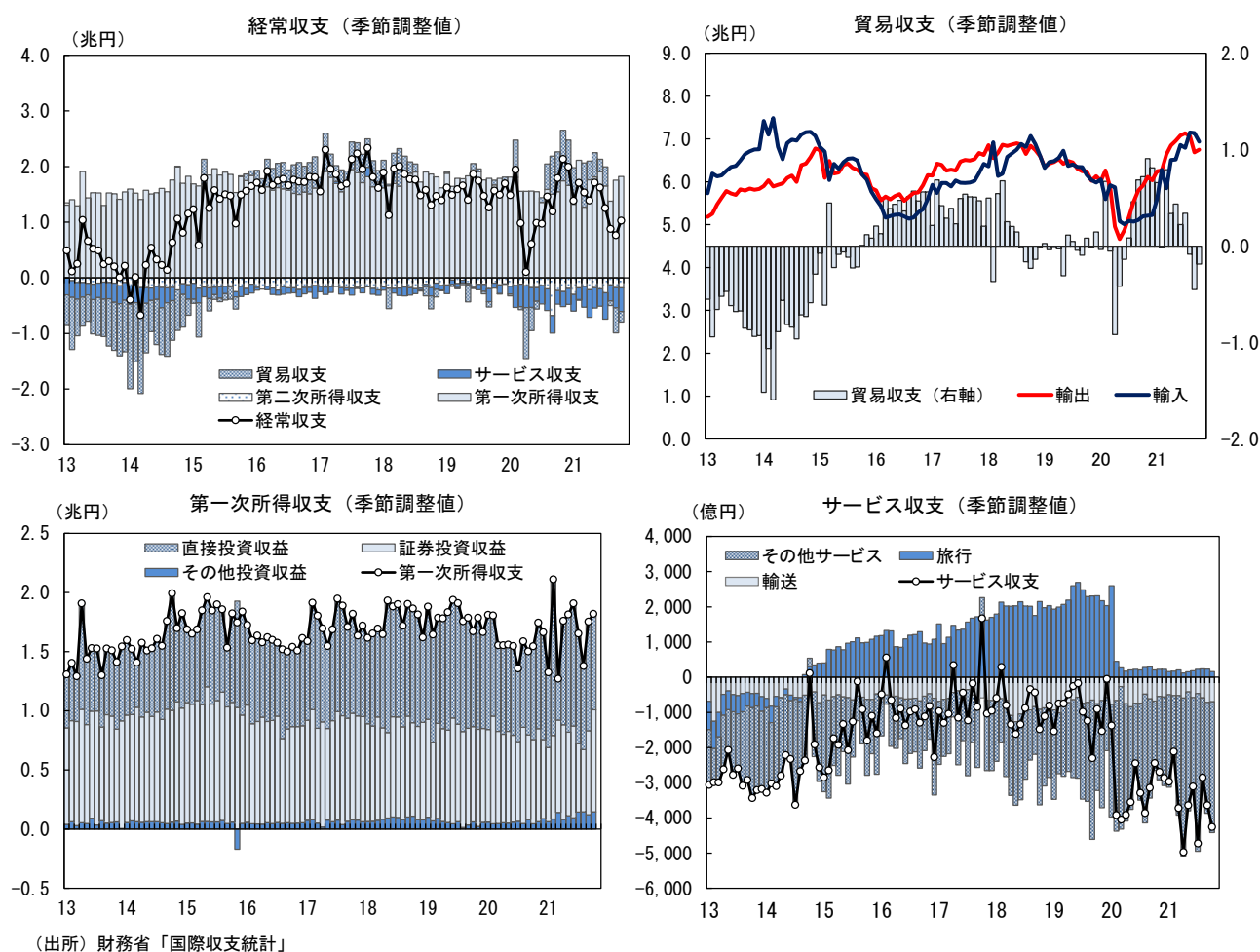
経常収支(季節調整値)を項目別にみると、次の通り。貿易・サービス収支は▲6,127億円の赤字と、9月(▲8,142億円の赤字)から赤字幅が縮小したものの、依然として大幅な赤字となった。部品調達難による自動車減産の影響で、先月大幅に下押しされた輸出については、前月比+0.9%(9月:同▲5.4%)と持ち直しがみられたものの落ち込みを取り戻すには至っていない。一方、輸入については、前月比▲2.9%となったが振れの範囲といえ、原油価格高騰を反映して高止まりする状況が続いている。輸入が輸出を上回る展開が続いたことで、貿易収支は3カ月連続での赤字となった。サービス収支は、依然として厳しい入出国制限が続いていることから、旅行収支は底這いでの推移となっており、赤字が続いている。

第一次所得収支は 18,199 億円の黒字（9 月：17,532 億円の黒字）となった。海外の旺盛な投資意欲に加えて円安進行が追い風となり、黒字幅の拡大が続いた。

○経常収支は緩やかな黒字幅改善を見込むが、オミクロン株の動向に注意

経常収支の先行きについては、次のように見込む。輸出については、自動車減産の影響で低迷が続いているが、自動車メーカーの計画では 11 月以降徐々に生産水準が回復する見通しとなっている。自動車生産の回復を待って輸出も持ち直すだろう。輸入については、11 月以降も原油価格の高騰を反映する動きが続くことで、高い伸びが続くだろう。これにより貿易収支は、輸出の持ち直しにより緩やかに赤字幅を縮小させるものの、輸入が輸出を上回ることによって、当面は赤字での推移が続くと見込む。一方で、所得収支については、海外経済の回復と企業の積極的な投資意欲を背景として、直接投資、証券投資ともに堅調な推移が見込まれる。その結果、経常収支は、当面は緩やかに黒字幅を拡大していく見込みである。

もっとも、足元では新しい変異株であるオミクロン株の出現により、不透明感が強まっている。すでに国内では水際対策の強化が進められており、旅行収支の回復の遅れは免れないだろう。現時点では、変異株の特性やワクチンの有効性等について不明点が多く、今後の動向に注意が必要である。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。